

Visual Imageの活用

— PowerPoint®でプレゼンを—

杉本 薫 Sugimoto Kaoru
(東京都立両国高等学校附属中学校)

中学校の英語の授業で使われる教具にもプロジェクターやパソコン、電子黒板などデジタル化の波は押し寄せている。ここでは、そういう環境を前提に、PowerPoint®を使ったPresentation(プレゼン)の手法を授業で活用することを提案し、自分の実践からいくつかポイントになることを説明したい。

1. まずイメージをつかませる

Visual Imageを使う利点は、英文が持っている情報(内容)を説明することなく、話者が伝えたい内容をイメージとしてそのまま提示することにあると思う。生徒は分析して理解するというよりも、画像全体を受け止める。これはうまくいけば、ほとんど一瞬の効果だ。もちろん的確な画像が必要だし、余分な情報、例えば文字などは、可能であれば、使わないぐらいの覚悟も必要だ。

例えば、受動態。まず、きれいに片付けられた教室の写真を示す(写真1)。この場面は“This classroom is cleaned every day.”という英文を発信しようとする人の心の中のイメージであると説明する。そして、“This classroom is cleaned by students.”のように、別の角度から見ている人のイメージとして、同じ光景の片隅に生徒の顔や掃除している姿を追加する(写真2)。この2枚の写真はby ~のある受け身とby ~のない受け身の違いを、画像の情報量から対比して表している。

2. 配列は受け手の意識の流れを考えて

スライドショーを使う場合は、この機能が送り手から受け手への一方通行のものであることを理解しておきたい。こちらが用意した順番で再生されていくもので、一度開始されれば展開の順番をその場で臨機応変に変えていくというのは難しい(SMART



写真1

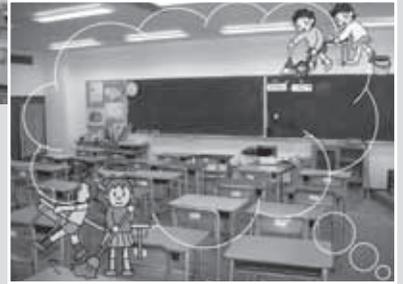


写真2

board™などの電子黒板ソフトを使えばこれも可能ではある)。となるとその配列は、そのままわかりやすさの重要な規準になる。発話のスクリプトを作るときに生徒の意識と集中が途切れないようなスムーズで自然な展開を用意することが大切だ。

Oral Introductionでは、使える英語の制限とわかりやすさの点から、やはりVisual Imageのメリットを生かしたPicture Cardや黒板に絵を描きながら話を進めることが多い。ここでもPowerPoint®を使ったプレゼンの手法が効果的だ。メリットとして考えられるのは次のような点である。①素材の加工が容易であること。②提示方法が多彩であること(ただし、シンプルなものの方が効果的とアドバイスしておく)。③スライドの配列の調整も容易。④保存と再利用、再編集が容易。⑤情報を整理し、確実に提示できる。うっかり忘れることも、不必要に繰り返すこともない。生徒の顔を見ながら、口頭で与える情報量は加減できる。⑥最後に「生徒によるOral Presentationの再現」という次の言語活動の導入にもなることなどが考えられる。

3. 文法事項の説明もプレゼンで

文法事項を英語で説明するようなことも可能だ。この場合にも、文法用語を上手く回避できれば、説明そのものがOral Interactionとして機能して、英語学習の大きな素材になる。例えば、僕は「現在完了形の説明」は、①英語で、大まかなイメージをつかませる、②日本語で、文法用語も使いながら詳細に説明、③もう一度英語で復習というように、同じスライドを使って3回ほど行っている。Visual Imageはそれだけでも強力だが、繰り返しの使用でさらに定着を目指すことができるだろう。